

## 「地」を大切に「克災」し「減災ルネサンス」で未来を拓く



福和伸夫  
依頼論説・オピニオン  
名古屋大学  
減災連携研究センター  
センター長・教授

### 災害を忘れずに将来世代に豊かな社会を継承する

アジアモンスーン地帯のプレート境界上に位置する我が国は、豊かな自然とは裏腹に、多くの災害に見舞われてきた。その結果、自然と折り合いをつけた日本文化を形成した。しかし、近年、小規模災害を抑制できる建設技術を手にし、人工空間に居住するようになり、災害をわがことと考える国民が減った。

昨年も、三重県沖、熊本、鳥取県中部、福島県沖、茨城県北部での地震、桜島、阿蘇山の噴火、東北・北海道での台風災害、糸魚川大火など、災害が続発した。十年前に発生した新潟県中越沖地震での柏崎刈羽原発の火災や自動車部品工場の被災をより深刻に受け止めていけば、東日本大震災の被害を軽減できたかもしれない。他地域での災害を自らの問題と捉え、目を逸らしがちな身近な防災対策に結びつける必要がある。

稀にしか起きない大災害を忘却せず安全意識を常に持ち続けるため、建築出身の筆者は、二千年前のローマの建築家ウィトルウィウスが建築十書に残した「強無くして用無し、用無くして美無し、美無くして建築ではない」の大切さを感じる。

### 大都市の致命的な災害病巣を検知し切除・治癒する

南海トラフ地震や首都直下地震を前にして、我が国は、人口減少や多大な債務など難題を抱えている。未来の子供たちに豊かな社会を継承するには、過去の災害に学び将来に備える必要がある。見たくない現実を直視し、社会の災害病巣をあぶり出し、早期に切除・治癒したい。

我が国の大都市は、軟弱な低地にまちを拡大し、建物を密集・高層化させ、災害危険度を高めてきた。他地域で生産する食料・エネルギーに頼り、高速交通・ライフラインに依存する高密度・高機能都市を作った。地方出身者が多く地縁・血縁が少ない大都市住民は、地元愛が不足がちで、体力のある1次・2次産業労働者も少ない。相互に依存し脆弱なため、災害に容易に波及・拡大する。大正関東地震での東京の犠牲者が、元禄関東地震の二百倍にもなったことを思い出し、首都への一極集中の深刻さを改めて考えたい。

### 地域に根付き地域の総力を結集し地域の未来を語る

筆者が居住する中京圏は、自動車産業や航空機産業が集積する産業拠点である。大いなる田舎と評されるように、地元出身者が

多い実直・地道な地域である。一方、地産地消、子沢山で、3世代同居率も高い。この地域特性が、製造業を支えている。南海トラフ地震対策においても、事業を継続し従業員が居住する地域を守ることが対策の基本との共通の思いで、産官学の連携が始まっている。名古屋大学減災連携研究センター、西三河防災減災連携研究会、本音の会などの活動である。

5年前に設立した減災連携研究センターには3つの寄付研究部門と35名余りの受託研究員が集い、産官学の協働を進めている。また、西三河の9市1町に加え、電力・ガス・自動車産業・県・大学が参画した防災減災連携研究会では、広域連携が実現した。40余りの組織が集う本音の会では、オフレコを前提に各組織の防災課題をさらけ出し、地域共通の災害病巣を共通認識しつつある。何れの活動も、「同じ船（地域）」に乗った者どうしが、地域愛という信頼関係に基づいて地域力を結集した成果である。本年7月には、「あいち・なごや強靱化共創センター」も発足予定である。

### 地域の災害病巣を治癒し減災ルネサンスを共創し自律・分散・協調型の社会を実現

これらの活動を通して、発電には水と燃料が、製油には電気と水が、浄水・送水には電気と燃料が必要であり、基盤となる道路・港湾・通信では多くの組織の連携不足によるボトルネックの存在が明らかになった。また、各組織の業務継続計画は、組織内の部分最適に留まっており、俯瞰的かつ全体最適の立場での地域の持続的発展の視点が不足していた。これを克服するには、従前の価値観を変え、地域の産官学の力を結集すること必要である。筆者らはこれを「減災ルネサンス」と名付け、地域の未来を拓く活動として位置づけた。

東京一極集中を是正し自律・分散・協調型の国土を形成するには、地域を支える人作りと、地域愛を育む地域の魅力作りが不可欠である。中でも地域の技術者不足は深刻である。そこで、地域の大学を、人材育成・戦略策定のシンクタンクと、人が集い語り合うアゴラとして位置づけたい。筆者らも、南海トラフ地震を克服（克災）する社会を作るため、シンクタンクとアゴラ役の減災連携研究センターと減災館を活用し、Think globally, act locallyの態度で、3×JAPAn活動を実践している。3×JAPAnは、3J=自由・地道・地元、3A=頭・汗・愛、3P=Player・Plan・Product、3An=Antenna・Analysis・Answerの語呂合わせであり、自立心の強い三男坊の名古屋的な活動だと思っている。

各地の建設技術者が、地域の魅力作り、活性化のために率先市民として活動すれば、地域の減災ルネサンスにもつながる。夢を持って自由な発想で未来を作っていきたい。